救護棟カルテ No. 17

今年も野生動物のこどもに関する通報がたくさん寄せられています。基本的に動物のこどもは保護できません。しかし中には保護をするケースがあります。今回はそんなケースをまたひとつご紹介。

子ギツネの６８日間の歩み

保護当日まだあどけない顔

５月、いわき市民の方から、「後ろあしを怪我している子ギツネを保護した」との連絡があり、センターへ搬入されてきました。

子ギツネの体重は 900ｇで生後 3～4 ヶ月ほどと考えられました。親からはぐれて事故に遭ったか、事故に遭いそのままひとりぼっちになってしまったのかもしれません。事故による怪我があったので、この日から治療と保育を始めました。

右後ろあしの大腿骨を骨折していたので、骨をくっつけるための手術を行いました。また、成長に合わせてエサのメニューや育てるスペースについて検討を重ねて世話をしました。痛み止めなどの薬を与える治療が続く中、エサをよく食べ体重も順調に増えていきました。

動物のこどもは親離れするまでの間、家族と暮らし、じゃれあい、叱られながら社会性や生きる術を学んでいきます。その大切な時期に家族と離れてしまったので、私たち野生動物管理員がその代わりをしようと、体を触ったり鼻をくすぐったりとふれあう時間を持ちました。はじめはきょとん…として無反応でした。

14 日ほどが経ち、固いエサも食べられるようになった頃、無反応だったふれあいにも変化が出てきました。さみしがってケージを噛んだりクンクン鳴いて気を引いてきます。治療が続く間、怪我をしたあしの負担にならない程度に散歩をさせて、色々な物や音にふれさせました。

手術から約３週間後、骨折は治ったので、広い空間でのリハビリを開始しました。その中で子ギツネはエサを隠すしぐさや獲物を狙うしぐさを見せました。また、手に持ったタオルを追いかけたり綱引きをしたりと狩りにつながる「遊び」も覚えました。

↑外施設の様子

その１週間後には怪我を感じさせないほどすばやく動くようになり、この頃には体重は２㎏を超え、野生復帰に向けて外のリハビリ施設へ移動しました。施設に入るとすぐ人から逃げ、シェルターと呼ばれる隠れ場所に身を隠します。自然の空気を感じたとたん、「野生動物」に戻る…野生動物の不思議で素晴らしい行動が確認でまずはエサを探す訓練、次に狩りをする訓練をしました。生きエサを使った狩りを２回行い、１回目より２回目には精度が上がり着実に技術や知恵を身につけていました。

初めての狩り！

野生本来の行動が確認できたため、実際の親離れより早いのですが、ヒトに慣れすぎる前に野生復帰させることを決めました。７月初旬、保護されたいわき市の山に放し、これから生きていく森へ静かに帰っていきました。

きりっとした顔つきになって２度振り返りながら
一瞬の晴れ間を駆けていきました。

令和４年９月１０日　福島県環境創造センター　附属　野生生物共生センター

あだたら森の回覧板

Vol. 17　夏号

サンコウチョウ

【福島県内のクマの目撃数が増えています。注意しましょう！】

令和４年度は県内全域でクマの目撃数が相次いでいますが、特に会津若松市の市街地で増加しています。７月にはクマに襲われ亡くなったとみられる事案も発生しました。福島県警のデータによると、令和４年４月から６月のクマの目撃数は合計５８件で、前年の同じ期間の２５件より２倍以上の目撃がありました（表１）。なぜクマは人間が生活する市街地に出没するのでしょうか。

表１　会津若松市でのクマの目撃数

	クマの目撃数	
	R３	R４
４月	2	11
５月	7	17
６月	16	30

図１　令和４年度福島県警ツキノワグマ目撃情報（４月～６月）

山に生息するクマが市街地に降りてきたときのルートについて考えてみます。図１の地図を見ると、４月から６月にかけてクマの目撃があった場所の近くには、東山地区から湯川という河川が流れています。市街地出没が起こる前に東山地区で複数回の目撃があったことから、湯川を通じて市街地におりてきた可能性が考えられます。

また、クマは夜間に茂みや草むら・木の陰に隠れながら行動することが多く、クマがエサを探しているうちに市街地へ迷い込んでいる可能性が考えられます。では、クマの市街地出没を事前に防ぐためにはどうすれば良いのでしょうか。

本来クマは森に住む動物であるため、人間との生活圏を明確に分けることが大切です。近年は過疎・高齢化の進展に伴い、里山の手入れが行き届かず人とクマのすみかの境目である緩衝帯の機能が弱まってきているといわれています。空き家や耕作放棄地の整備、草木の刈り払い、生ゴミを外に出したままにしないなど、人間の生活圏に入れない環境作りが必要となってくるでしょう。

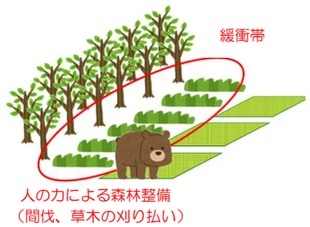

図２　緩衝帯のイメージ

図３　生ゴミを放置

野生生物共生センターでは、野生動物の剥製やパネルの展示、映像放映等をおこなっており、入館料無料で自由に見学・閲覧できます。事前にご相談いただければ、団体でのご利用や職員による解説などの対応も可能ですので、興味をお持ちの方はお問い合わせください。

詳しくは… HP　環境創造センター　検索

発行: 福島県野生生物共生センター
〒969-1302
福島県安達郡大玉村玉井字長久保 67
電話　0243-24-6631
開館時間　9：00～17：00
休館日　毎週月曜日
（祝日の場合はその翌日）

本誌内の文章・画像等の無断転載および複製等の行為はご遠慮ください。

出張講座

私たちと野生動物

～野生生物共生センターのお仕事～ in 郡山市ふれあい科学館～

７月２４日（日）と８月７日（日）、小中学生の親子を対象とした出張講座を郡山市ふれあい科学館スペースパークで開催しました。講座では、センターが担っている役割や獣医師のお仕事体験、野生動物管理員の仕事についてお話しさせていただきました。

獣医師のお仕事体験では、参加者が聴診器を持ち自分や家族の心臓の音を聞く体験をしてもらいました。少し難しい話もありましたが、参加者は人間活動によって怪我をしてしまった動物の写真や動画を真剣な眼差しで見ていました。野生動物との共生について考えるキッカケとなったようです。

親子で参加
～クロスワードクイズ～

夏休みから１０月末までの間、クロスワードクイズを実施しています。夏・秋の思い出に、親子で参加してみませんか？

クロスワードクイズについては、環境創造センター、猪苗代水環境センター、野生生物共生センターの３施設を巡りクロスワードの完成を目指すイベントです。

参加いただいた方には各施設オリジナルグッズをプレゼントいたします。イベントの詳細は、センターHP をご確認ください。皆さまのご参加をお待ちしております。

野生生物共生センターではクッションシートをプレゼント！

※10 月 30 日（日）まで

施設見学状況

６月・７月に地元の小学生が見学に来てくれました。見学に併せて行った研修では、野生動物の映像を見たり、地元で見られた珍しい動物を紹介したりしました。

真剣にお話を聞く大山小の児童さん

見学に来てくれた小学校

二本松市杉田小学校	小学４年生	３３名
二本松市南小学校	小学４年生	４１名
大玉村大山小学校	小学５年生	３５名
二本松市油井小学校	小学５年生	３５名

研修の申し込みを受け入れ中！

センターでは、随時研修の申し込みを受け入れています。例えば、野生生物共生センター業務（獣医師、野生動物管理員の仕事）や生態系の仕組みや生物多様性の保全についてなどの講義が実施可能です。また、ご要望に応じて職員を派遣する出前授業や Zoom 等を活用した講義等、コロナ禍の学習への対応も可能です。野生生物との共生や生物多様性の保全にご興味がありましたら、当センターまでお問い合わせください。

令和３年度野生動物傷病白書

野生生物共生センターでは、交通事故など人の活動の影響により、怪我をした野生動物の治療・リハビリを行い野生に帰す活動を行っています。今回は令和３年度の救護実績について紹介します。

救護活動状況

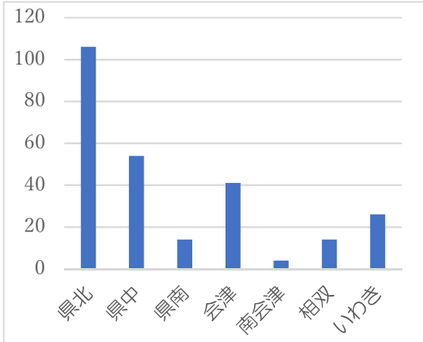

図１　県地方振興局別受付件数

（１）傷病動物の受付状況

令和３年度の総受付件数は、264件（哺乳類68件、鳥類 196 件） でした。月別の受付状況は、例年みられる春先のピークは低く推移しました。取り扱い件数を県地方振興局管内別にみると、図１のように中通り地域からが圧倒的に多いことが分かります。

（２）野生復帰

令和３年度の野生復帰のために治療やリハビリに着手した件数のうち、野生復帰できたのは 32.3%でした。他県でも同様の復帰率になっています。また、搬入される傷病動物の数は年々増加傾向です。

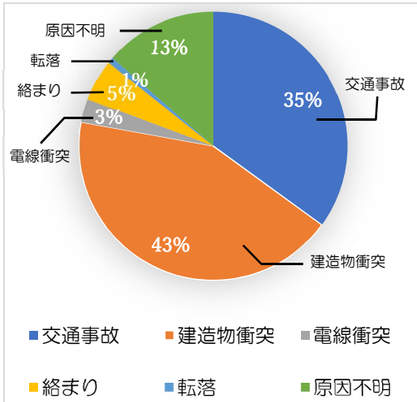

図２　物理的原因の内訳

（３）特記すべき令和３年度の特徴

図２に示すように、交通事故や建造物衝突といった物理的原因が７割を超えています。「絡まり」の内容としてネズミ捕りシートによる野鳥の搬送が多くなっています。粘着シートに絡まった親ツバメが死亡して孤児になった子ツバメを放鳥するということもありました。

また、本県内陸部に見られるオオミズナギドリの「迷行落下」について、生態的に説明できるようになりました。

（あだたら森の回覧板 R4.4.30 付 Vol 16 参照）

QR コードでチェック！

野生動物の写真を募集中！

野生生物共生センターの展示室に、あなたの撮影した野生動物の写真をかざりませんか？

テーマ

福島県内で撮影された野生動物たち

写真を提供してくださった方には、当センターオリジナルグッズをプレゼントいたします。

なお、作品は当センターの行う環境教育活動に活用させていただくことがあります。

ご意見募集中！

館内展示の充実や今後のイベント検討のため、皆さまのご意見を募集しています。こんなイベントに参加してみたい！東日本大震災が野生生物に与えた影響についてもっと詳しく知りたい！など、ご意見を館内のアンケートにてお聞かせください。

アンケートをご記入いただいた方には、当センターオリジナルグッズをプレゼントいたします。

※当該プレゼント企画は予告なく変更終了する場合があります。

みんなと会うことを楽しみにしているよ！